

【目的】近年、働く女性は増加した。しかし職業と家庭との両立は依然として困難な状態である。そこで本報では、看護職婦人の職業継続とそのことが夫との間で家庭生活に与えるどのようなギャップがあるのかを調査の実態から捉え、看護職継続と家庭生活とを両立してゆくのに可能な条件とは何かを分析する。【方法】看護専門学校卒業生417名とその夫に就し、昭和60年10月1日～31日の期間に郵送による質問紙法で調査を行なった。回収率：242名(58.3%)分析数：有職者211名、無職者32名、有職既婚者の夫128名【結果】自らの経済力を持ち、職業をあり前として働く看護職婦人の職業継続意識は高い。そして職業継続には、健康、夫の協力、仕事への意欲をあげてあり、既婚者で年齢が高く勤務年数が長くなる程、両立に自信ありと答えている。次に妻の就業によって生じる家庭生活に対する夫と妻との意識のギャップをみると、8割の夫が妻の働くことに賛成を示しているが、妻はそのことで家族に対して迷惑をかけると思っている。又、プラス面では家計にゆとりが出来る、子供の自立精神が養える、マイナス面では大抵もう時間がない、親せき近所づき合いが不十分になる、巨額の小遣いの方が妻よりも高い割合を示している。全体としては、妻に就して職業を持ち家庭との両立タイプを望んでいるが「職業を持つが家庭を主体に」と考える夫の方が多い。そこで、職業と家庭とを両立させる条件として①家族の理解、協力②仕事が生み出す上での支えとなっている③女性の生き方として職業と家庭とを両立させようとするタイプ④性別役割分業意識の固定観念に反対する⑤職業人として自覚を持つ男があげられる。